視点の異なる感性の組み合わせで想像以上の作品ができました。

―『わざわ座デザインコンテスト』参加者座談会―

STAFF TALK
WAZAWAZA DESIGN CONTEST

4回目の開催となった『わざわ座デザインコンテスト』。今回は、初参加の山本+相澤チームが受賞するという快挙を達成しました。その裏にあった取り組みや、スタッフの思いをご紹介します。

左から山本知史（現場監督）、相澤真希（広報）、成島大敬副社長、後藤秀孝（棟梁）、久保田亜矢子（設計）。采女直資棟梁、市村浩人現場監督は予定が合わず欠席。

今回は、お互いの刺激になれば、と考え普段の仕事とは違うチームを組んでやってみました。実際に現場はどうだったのか、早速皆さんの話を聞いてみましょう。（大敬）

元の形が決まれば、細部はお任せ（後藤+市村チーム）

スライドする仕掛けを見せる後藤棟梁

後藤　私はつくることは好きだし細部をキレイに仕上げる技術はあるのですが、元になるデザインを考えたりアイデアを出すのは苦手。今回イチ君（市村）と組んで、とても勉強になりました。

大敬　把手を光らせるのは市村君のアイデアですね。

後藤　そうなんです。簡単な手描きのスケッチを持ってきて。最初は三角柱だったのですが、構造的に無理だったので、四角柱にしました。

山本　「後藤さんにできないって言われました」としょげて帰ってきましたよ（笑）。

久保田　スライドして把手が外れる造りになっているのが分からなかった。

後藤　そこは私が考えたところですね。全体の形さえ決まれば細部をどう仕上げるか、強度を保つにはどうするかなど、工夫を凝らしていけます。

大敬　そうですね。おかげで他にはないものができましたよね。

後藤　はい。この経験は普段にも活かしたいし、来年もぜひ参加したいです。

結局、機能美ってシンプルなんです（采女（うねめ）+久保田チーム）

大敬　采女+久保田チームは一番早くでき上がっていましたね。

久保田　はい。二人とも何回か出品した経験があるから、お互いにやりたいことが見えていたんです。采女さんに「これを把手に使いたいんです」と見せていただいたえんじゅの木が、木目も美しいし手ざわりが良いので、そのまま使いましょうと、その場で決めて製作にかかりました。

大敬　つくる上で苦労したことはなかったですか。

久保田　最初はこの受け材（カツラ）を見せる部分を田の字型に4つ見せたかったのですが、斜めに2つになりました。あと、把手はクサビで固定しようと思いつい

受け材のこだわりを語る久保田

（左）後藤棟梁＋市村、
（中）采女棟梁＋久保田、
（右）山本＋相澤による作品。

たことで、すべてオッケーという感じでした。

山本　クサビは私もやりたいと思ったのですが、細すぎて断念したんです。

久保田　アイデアを色々と盛り込んでみて、最終的に余計なものを引き算していく。機能美というのはそうやって完成するものですよね。

リフォームにも広げていけますね（山本+相澤チーム）

息ぴったりの山本と相澤

相澤　私の場合、アイデアはあってもできるかどうかは分からない。ネットで調べたりして、良さそうな写真を山本さんに見てもらいました。何か思いつくたびに山本さんに聞いたので、少しうるさかったかも…（汗）。

山本　六角形にしたいとか八角形がいいとか（笑）。結局サンプルをいくつかつくって詰めていきましたよね。最初はもう一回り大きかった。

相澤　実際に形になって、太さもこれくらいが良いと納得できました。釘を使わずに組んでいる技術を見せたいというのが、一番こだわったことです。

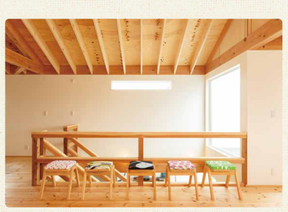
山本　そのためにツートンの組み合わせにも気を遣いましたね。実は濃い方の木は、母屋（MUNI）をリフォームしたときに不要になった床柱なんです。素敵なものができたので、トイレのドアに付けようと思っています。

大敬　いいですね。そういうストーリーがあるリフォームは技術のある工務店じゃないとできないですから、今後の仕事に活かしていきましょう！

3チームそれぞれの思いがあり、得るものがあったようで良かったです。これからも意見を出し合う機会を大事にして、お客様により良い提案ができるように頑張ります！（大敬）

大工がつくるわざわ座の家具「大工の手」

わざわ座の家具「大工の手」は、著名な建築デザイナーが手掛けた設計図をもとに、手仕事の専門家である大工が腕をふるい、家の専門家である工務店が住まい手にお届けするという、協力体制によってつくられます。新築の際に出る端材や、古い住宅の解体やリフォームで出た古材等を積極的に活用するのも特徴。家を建てる大工の手によって素材を無駄なく活かすことで、木の家具はずっとそこにあったかのように木の家に馴染み、身近な存在となっていきます。



大工の手のホームページはこちら

SUMAIKOUBO NARUSHIMA CRFTSMANSHIP
職人会

職人紹介 Shokunin File

いつも寡黙でてきぱきと仕事をこなし、頼まれたら決して嫌とは言わない。
そんな大工職人のイメージがぴったりはまる中里棟梁。一昨年からナルシマの職人会の一員となり、新築にリフォームに、大活躍中です。

実家が工務店だった関係で、19 歳から鉄筋工を 2 年務めた後、父親の下に入って大工一筋。当時はビルの現場にも関わったそうですが、13 年ほど前に棟梁として独立してからは木造の戸建てを主に手掛けてきました。モットーは「現場はきれいに、ひと手間かけて、丁寧に」。基本に忠実ながら「これまで一切クレームを受けたことがないのが誇り」という、頼れる職人さんなのです。趣味はバイクで、愛車はカワサキのZ250LTD。良き時代のアメリカンスタイルが似合いますね。

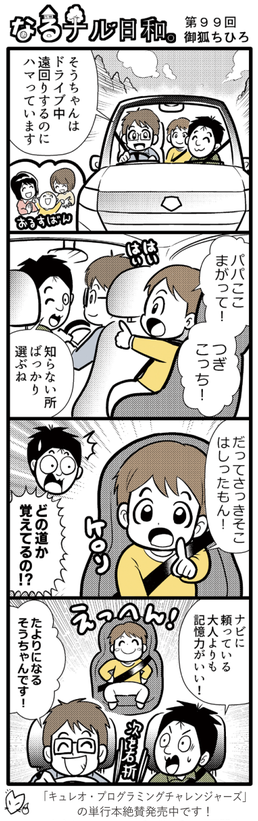
どんな現場でも堅実、確実な仕事ぶり。

母屋（MUNI）のリノベーション現場でも活躍。

棟梁
中里 明（53）

Shokunin File.10
Akira Nakazato

ビル工事にも携わり色々経験したことが今に活きています。



「キュレオ・プログラミングチャレンジャーズ」の単行本絶賛発売中です！
さらにコロコロイチバンで連載再開！
さらにさらに週間コロコロでクック池田の漫画が無料で読めます！大忙しです！
応援よろしくお願いします！

はみだしサポート

記念すべき2月17日㈮『わざわ座デザインコンテスト２０２２』受賞作品発表会にて山本＋相澤チームが「仕口賞」を受賞。「仕口」とは梁や柱などで木の強度を高めたり、古民家では釘や金物の役割と納まりの審美性を追求する技法です。この名誉ある賞は、山本の寺院建築など伝統技法を使った大工経験があってのこと。普段は現場監督ですが、今回に限り「ザ・大工」と言わせてください。（あいざわ）

ki no hako

ざいもく屋の木を楽しむかんたんDIY
木のはこ
木の香りに癒されながら「つくる」を楽しみましょう

多肉植物の寄せ植えBOX

3/25（土）・4/1（土）
13:00〜15:30 ※午前はありません　予約制
参加費 3,800円（税込）

春ですね。木製BOXを手作りして、多肉植物を育ててみませんか。

多肉植物はお世話が簡単でインテリアとしても人気です。
ふっくりした葉やバラの花のような形などたくさんの種類があり、見た目が多彩です。
いろいろな形やカラーを組み合わせて植えられるのも楽しいですね。
木製 BOX は釘と金づちを使って製作し、ペイントをします。

サイズ　横21cm×縦23cm×奥行6cm

※多肉植物は5〜6種類使います。※種類は仕入れ状況により画像のものとは異なります。
※外での作業となります。汚れの気になる方はエプロンをお持ちください。

毎月やってます〜

ひのき＆すぎのアロマポンポン作り

3/11（土）
13:00〜15:00
予約不要

桧や杉のかんなくずでつくる「アロマポンポン」
１個100円で何個でも製作可能。
直径8cm〜12cmくらいです。
※ホームページで開催のご確認をしてからお越しください

お持ち帰り用の袋をご持参ください。

DIYワークショップ 木のはこ
ざいもく屋（有）成島商店
会場 取手市駒場 2-14-12
0120-885-119

Instagramで #木のはこ成島商店
をつけて作品を投稿していただくとホームページでも紹介されます。

#木のはこ成島商店

皆さまの投稿をお待ちしております。
成島商店のインスタアカウントはこちらです。
▼▼▼
@kinohakozaimoku

お申し込み方法

木のはこ LINE を登録済みの方は今まで通りにご予約できます！

初めてご予約の方はこちらの QR から木のはこ LINE へつながりますのでお友達追加をしてお申し込みください。

ざいもく屋（有）成島商店 HP
木のはこ予約申し込み方法

DIY 作り方動画をホームページで公開中